

山口市ゆかりのみなさまの 『集いの場』をめざして



今年は、大政奉還、王政復古の大本令から 150 年の年、来年は明治維新 150 年の節目の年を迎えます。山口七夕会も、平成 31 年 (2019 年) の設立 20 周年を 2 年後に控え、今後、「二つの挑戦」に取り組むまいと考えています。

一つは、「ふるさと山口への貢献と交流拡大！」への挑戦です。「ふるさと納税」の更なる推進と地域の資源である特産品、観光スポット

などの PR 活動や売り込みに山口市役所と連携して取り組んで参ります。

次は、「老壮青の幅広い世代の結集！」への挑戦です。社会の流れと同様に会員の高齢化が進んでいますが、今年も昨年に引き続き、女性や若い方々に力点を置いて会員の拡大を図ります。

また、東京と山口の両本部もそれぞれの地域の特徴を生かして活発に活動されており、次のようなことに取り組んでいただきます。

東京本部では、山口市役所の地方創生の取り組みに協力して、東京圏でのふるさと応援組織の設置に向けたネットワークづくりや SNS を活用した情報発信、交流事業、さらに、山口市ゆかりのみなさまが集う拠点づくり、場づくりの準備に積極的に取り組んでいただきます。

山口本部では、平成の大合併で広がった 1 市 5 町の 21 地域の特産品などの地域資源を掘り起こし、東京圏への売り込みなどの PR 活動に山口市役所や山口商工会議所などと連携して取り組んでいただきます。

これらの取り組みのために、今後とも会員のみなさまのご理解とご協力、ご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

平成 29 年 9 月

山口七夕会 会長

八木重一

＝目次＝

◇八木会長/挨拶-----1

◇祝辞

山口市長 渡辺純忠-----2

山口市議会議長 重見秀和-----3

◇平成 28 年度の活動/ダイジェスト

【東京本部】-----4

【山口本部】-----5

＝寄稿＝

○山口本部総会講演会は、熱い涙と想いに満たされました。

山口本部副本部長 申神正子-----6・7

○「2017 豊洲ふれあい納涼祭」に参加して

東京本部 荒瀬恵理子-----8・9

○「山口県応援隊東京本部交流会参加」

幹事 本多圭子-----10

○「平成 29 年山口本部交流会第 4 回音楽祭「輪-Rin-」

山口本部事務局長 濱野文彦-----11

○優しさに限界はない……「八重子のハミング」応援隊奮闘記

東京本部長 梶山俊哉-----12・13

○「故郷山口・仁保荘は、源頼朝からの軍功賞」

山根和也-----14

○「レノファ山口 2017 初戦観戦記」

東京本部 大田 宗-----15

○「冬の徳佐を満喫する会」

山口本部楽農部会長 関 和貴-----16

祝 辞



山口七夕会の会報第4号の発行につきまして、心からお祝いを申し上げます。

八木会長をはじめ、会員の皆様方におかれましては、平素から、本市発展のため、御尽力いただいておりますことに対しまして、心から感謝を申し上げます。

特に、アクティブシニアの本市への移住定住を促進する「山口市生涯活躍のまち(日本版CCRC)構想」の推進につきまして、首都圏と本市の連携強化に向けて情報発信やネットワークづくりなど、多くのお力添えを賜っておりますことに対しまして、厚くお礼を申し上げます。

山口市長 渡辺 純忠 さて、本市では、県中部エリアにおきまして、圏域全体の経済成長のけん引や、高度な都市型サービスの向上につながる高次の都市機能を集積、強化し、県勢の発展に寄与するための「広域県央中核都市づくり」を展開しております。山口都市核では、十朋亭周辺の整備や亀山公園山頂広場の整備をはじめ、市街地再開発事業の取組等、小郡都市核では新山口駅北口駅前広場や南口駅前広場の整備、また、新山口駅北地区拠点施設整備のビックプロジェクトも順調に進んでおります。引き続き、平成30年度からの次なる10年に向けて、第二次山口市総合計画に位置づけて取り組んでまいりたいと考えております。

そして、来年、平成30年はいよいよ明治維新150年を迎えます。明治維新の策源地でございます本市におきましても、これを絶好の機会と捉えまして、この記念すべき年に向けて、企画展の開催や広報誌の発行など、本市における明治維新関連の歴史資源、観光資源を活用し、地方創生につなげる事業展開を実施することといたしております。

また、来年9月には、52日間にわたり山口きらら博記念公園を会場に、第35回全国都市緑化フェア「山口ゆめ花博」が山口県と本市の共催により開催されます。

こうした様々な取組によりまして、市内外に本市の魅力を情報発信いたしますとともに、「これが私のふるさとだ」と、多くの市民の皆様が誇りと愛着を持てるまちづくりを、これからも全力で進めてまいります。

山口七夕会の皆様におかれましては、ふるさと山口の力強い応援団として、引き続き、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山口七夕会の今後益々の御発展と、会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



山口市議会議長

重見秀和

山口七夕会会報の発行につきまして、心からお祝いを申し上げます。

八木会長様をはじめ、会員の皆様におかれましては、ふるさと山口を愛し、会の活動を通して相互の交流を図られながら、本市の発展に多大なるお力添えをいただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

また、7月に東京で行われました定時総会には、5月から6月にかけてドイツで行われた世界卓球選手権において、石川佳純選手との混合ダブルスで金メダルを獲得した吉村真晴選手も出席され、会員の皆様とともに日本勢48年ぶりの快

挙をお祝いさせていただきました。このような、本市ゆかりのアスリートの活躍は大変喜ばしいことございまして、私たちに元気と活力を与えてくれます。2020年東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、今後の更なる活躍を期待いたすところでございます。

さて、来年は明治維新150年の節目の年を迎えます。本市では、既存の観光施設を含めた回遊性を向上するため、様々な整備が行われており、今年4月には山口市菜香亭のリニューアルを行い、「歴史巡りの庭」及び「多目的広場」が完成いたしました。また、来年には、亀山公園山頂広場や十朋亭周辺の施設整備が完成する予定でございます。これらにより、新しい時代を切り開いた明治維新策源地としての本市の歴史的・文化的魅力がさらに高まるものと期待しております。どうか七夕会会員の皆様におかれましても、明治維新150年と維新策源地としての本市の魅力を多くの方に広めていただきますよう御協力をお願い申し上げます。

また、来年は、本市鑄銭司の出身で、明治維新の功労者であります、大村益次郎の没後百五十年にあたるということで、地元では自治会を中心とした実行委員会が立ち上げられ、記念事業の実施が計画されております。大村益次郎の銅像は靖国神社に建立されておりますが、出身地である鑄銭司にも有志による銅像建立の活動が進められております。また、室町時代から連綿と受け継がれた伝統の夏祭りである「山口祇園祭」に関しても次世代への継承を目的にクラウドファンディングという新しい取り組みが行われました。この2つの活動につきましては、私が7月の定時総会に出席いたしました折に御紹介させていただきましたが、ふるさと山口でも地元を愛し、活動を行っている多くの仲間がおりますことをお知り置きいただき、皆様の御協力がいただけると幸甚に存じます。

終わりに、山口七夕会のますますの御発展と会員の皆様のなお一層の御健康と御多幸、御活躍を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

平成 28 年度の活動/ダイジェスト

《東京》

★平成 28 年度定時総会兼東京本部総会を開催

7 月 23 日(土)、東海大学校友会館に於いて山口七夕会定時総会兼東京本部総会を開催しました。

八木会長の挨拶に続いて、渡辺山口市長、重見山口市議会議長様から挨拶をいただきました。続いて「山口市生涯活躍のまち構想」の取り組みについて山口市ふるさと創生部長大田正之様から説明がありました。

この後、会則に則り八木会長を議長に選出して定時総会の議事に入り、全議案を承認いただきました。

総会後は講演会に移り、「天命の人・・・俊乗房重源の生涯」と題して、講師に古賀武陽氏(山口日米協会理事)をお招きしてご講演を頂きました。



懇親会は全員合唱「山口市の歌～ふるさとの風」で幕が開きました。伊藤山口副市長の乾杯に続き、参加者関係団体の近況報告や新規参加者の紹介、恒例となった山口特産品が当たるじゃんけん大会などで大いに盛り上がり、渡辺幹事の進行により「花は咲く」「翼をください」を全員で合唱しました。

最後は石田副会長が締め、お開きとなりました。

★第 23 回交流会 平成 28 年 11 月 26 日(土)開催

インテリジェントロビー・ルコ(参加者:35 名)

○講演:「レノファ山口の現状とレノファ山口を通じた山口の活性化・地方創生」

講師:(株)レノファ山口 経営企画室長 中島和彦氏



★★第 24 回交流会 平成 29 年 3 月 11 日(土)開催

インテリジェントロビー・ルコ(参加者:37 名)

○卓話1:講師:「GOBO」代表 阿部成美氏

「次世代の食と農を面白くするー全国の若手の挑戦ー」

=感想=

現在は、食と農業に関心のある若手社会人の融資「GORO」の代表として活躍中。全国で若手中心に活動をしているという話が始まると、情熱がないと GORO の活動は、広がっていかないんだろうな～と、入り込んでしまいました。



大学のサークルの延長上に現在の活動があり、活動拠点も全国にできつつある。講話が進むにつれ、将来の農業のあり方をリードして頂けて嬉しいなという気持ちで聞いてしまいました。

私が大学を卒業して社会人になった頃を振り返ると、しっかりした世代が出てきたなという印象でした。まさに若手の挑戦でした。

(東京本部事務局長・岡本暁彦)

○卓話2:講師:富士ゼロックス政策ビジネス推進部統括シニアマネジャー 藤井謙志氏

「徳山から見た、転勤者の目で見えた、山口市の魅力～寄り添って分かる奥深い魅力～」

=感想=

山口市に富士ゼロックス山口代表取締役社長で勤務したときに山口市は、転勤者としての自分をとても暖かく迎えてくれた。すぐに仲間に入れてくれた。



暖かい市民とふれあいの中から山口市の景観を改めてみると、一の坂川(春の桜並木、夏の源氏螢)、県庁にある門など、ぶちええとこじゃ！今から思い出しても『ぶち好きじゃ』と、市内を表現されていたことは印象的でした。

私が感銘を受けたのは、萩城城跡になぜ天守閣がないんじや！という素朴な疑問から熱意を持って復元に至るまでの3D 画像を作成された点でした。現在でも天守閣の復元は簡単ではなく難しい。しかし、山口大学、萩市役所、山口県庁の関係各部に

精力的に交渉した過程の話、感銘を受けました。苦勞して作成された3Gの萩城のグラフィックCD、今後、行政各セクションで有効に利用されていくと、その情熱も実り、嬉しいなと、思った次第です。

(東京本部事務局長・岡本暁彦)

《山口》

★「第3回音楽祭 輪-Rin-

スイスからハーブにのせて」

- ・平成28年5月14日(土)開催
- ・出演:ハーブ Vera Schnider、ピアノ:棟久木綿佳
その他有志
- ・ポルシェセンター山口(参加者:75名)



★平成28年度山口本部総会

平成28年8月21日(日)午後4時より、山口市湯田温泉の西の雅「常盤」において、平成28年度山口七夕会山口本部定時総会が開催されました。

まず、はじめに瀬川本部長による開会挨拶があり、続いて、伊藤副市長による来賓挨拶、その後、東京大学教授・工学博士の金子成彦先生による講演会が「日本の近代化を支えた山口市出身の工学者」というテーマで、山尾庸三氏をはじめとした我が国の近代化を支えた様々な山口市出身の工学者が紹介されました。

講演会終了後、休憩をはさみ、総会が開催されました。はじめに7月23日に東京で開催された山口七



夕会総会の報告が行われ、続いて、山口市役所創生推進課の伊藤様より「山口市生涯活躍のまち構想」の取り組み状況についての説明がありました。

その後、「山口市の歌～ふるさとの風」を参加者一同で合唱し、平成27年度山口本部事業報告及び平

成28年度山口本部事業計画の議案審議となり、議案は全て承認されました。

総会終了後は、会場を移し、会員交流会が行われました。じゃんけん大会、山口本部恒例の庄さんによるダンス等々、当日は、50名を超える参加者で大いに盛り上がり、最後に申神副本部長による挨拶、濱野事務局長による一本締めで閉会となりました。



★秋の講演・交流会

- ・平成28年11月26日(土)開催
- ・山口市湯田温泉の西の雅「常盤」
- 講演:「奇兵隊の風～もつれ雲編～」
- 講師:西村洋一(小学校教諭)



★「酎-Takenawa-祭」

- ・平成29年2月18日(土)開催
- ・山口市 菜香亭(参加者:55名)
- 講演:「やまぐち・酒の歴史山口人は酒好きだった?」
- 講師:柏木 享(やまぐち発酵文化研究所 代表)



平成 29 年度山口七夕会山口本部総会講演会は、熱い涙と想いに満たされました。



演題項目:「こだますいのち」
講師:「すえなが内科在宅診療所 院長 末永和之先生」

【講師プロフィール】

1978 年、鳥取大学大学院医学研究科卒業。

1979 年、総合病院山口赤十字病院内科勤務。
1990 年より院内緩和ケア研究会を主宰し、緩和ケアに取り組む。

1992 年、山口赤十字病院に緩和ケア病床を開設し、1999 年、緩和ケア病棟承認施設を開設。緩和ケア科部長、副院長を経て、2013 年 3 月、山口赤十字病院を定年退職。同年 4 月すえなが内科在宅診療所を開院し、現在に至る。

総合病院山口赤十字病院名誉ホスピス長、前・日本死の臨床研究会世話人代表(現在は顧問)、特定非営利活動法人日本ホスピス緩和ケア協会監事。

主な著書に「ひとひらの死」(近代文藝社)、「いのちの響—ホスピスの春夏秋冬」(青海社)、「一般病院における緩和ケアマニュアル」分担執筆(へるす出版)、「ゆうにゆうにまあるくまあるく」(木星舎)、他多数。監修に「笑葉—がんと生きる 100 のことば」(山本兼山著、青海社)、「ぼくが生きるということ」(文・おかふじみちこ、絵・とおやみお、木星舎)がある。

ご講演後、会員の洞春寺ご住職の深野宗泉さんから、このような言葉をいただきました。実に的確にご講演を捉えてくださっていたので、紹介します。「何度も繰り返された『実存』の言葉。病床にあっても無かって誰しもが独りではなく、必ず誰かに頼られていると識ることで浮き彫りになる存在意義。また、相対的な価値観に追い回されて苦しみに堕するばかりでなく、家族の愛情のように無条件に愛おしむ慈悲といった絶対への転換の必要性を説かれるところなど、法話と変わらず。曹洞宗ボランティア・シャンティを創設した周南の故・有馬実成師と

山口本部副本部長 申神正子

の会話の中で、『感性』と『感動』は大切だが、それだけでは足りない。あと一つは『行動』だよ！」と教わった事も、今につながる原動力になっているといったお話が印象的でした。」

先生はご講演中に会場の皆さんに「目をつぶってください。今の自分に点数をつけるとしたら、何点ですか？」と質問され、100 点をつけた方はおられませんでした。すると先生は、「この瞬間に、自分は 100 点満点力出して生きているよって、言っているんだから、胸を張っていいんだから、意味があるんだから、生きているってことは」と。

また、生命といのち、死は人生の完成であり、決して悲しいだけのものではない、むしろ暖かいものであるし、そうあるように寄り添いたいとおっしゃっていました。

後日、末永先生に感謝の言葉を伝えに行きました。どうしても質問したかったことがあり、聞いてみました。「誰にも苦悩を打ち明けられず、絶望に打ちのめされ、生きてゆく希望が無くなったときに、どう寄り添えるだろうか」と。先生は、「難しい、難しいよ。本当に希望も無くなってきたら、苦悩も繰り返す言も出なくなる。その力さえ出なくなり、自分の実存を肯定できなくなる。そんなとき、どう寄り添えるか、これは難しい。出来ることは側にいて、頷いてあげること。それしか出来ないこともある、かけようの無い言葉は空を切る。」どこまでも、暖かい先生だと想いながら診療所を後にしました。

山口七夕会では、八重子のハミングを応援していることもあり、映画のラストの言葉「ひとの尊厳をまもった」この話題も懇親会で出ました。末永先生のおっしゃった実存。尊厳を守ることに通じる「実存」をもっていのは完成し、意識に残り生き続ける。

講演会の感動の後には肅々と総会が執り行われ、東京本部より、梶山東京本部長からの活動報告とアイラブ山口、今後の熱い想いを語っていただきました。

懇親会場では、瀬川山口本部長よりご挨拶いただき、和やかに宴会開始されました。山下りえこさんによる二胡の演奏を堪能し、さらには徳佐の巨大スイカ重量当てクイズ、広島カープ応援日下無双争奪の熾烈なジャンケンゲームに興奮、ラストは山口七夕会員の庄さんをセンターに老若男女の

恋ダンス等、激しい踊りが繰り広げられました。

人生 100 点を付けることが出来るように、毎日大切にしながら生きていこうと誓いながら閉会となりました。



「2017 豊洲ふれあい納涼祭」に参加して

東京本部 荒瀬 恵理子(会員No. 606)

「干しえびいかがですか〜?」「冷たい甘酒はいかがですか〜?」

8月5日(土)東京の湾岸地区、芝浦工業大学豊洲キャンパス中庭に、山口の特産品を売り込む声が響きわたりました。山口七夕会東京本部は今年も、「豊洲ふれあい納涼祭」に協賛している山口銀行豊洲支店と山口市への協力事業として山口展(山口銀行と山口市のブース)の運営をサポートしました。



今年の売り物は、秋穂特産の『干しえび』と阿知須でつくられた『甘酒』です。干しえびは、無着色・天然の味で、おつまみとして食するもよし。または、酢の物、煮物、めんつゆ作りにも最適という品。甘酒は、米本来の甘みを活かした無添加・無加糖・ノンアルコールの本格甘酒で、プレーンと生姜味の2種類が用意されていました。山口市職員の方のご説明に、皆それぞれ売り込みトークを考えつつ、真夏の暑さと闘いながら準備をすすめていきました。

来場者 7,000 人が見込まれた今年の豊洲ふれあい納涼祭。山口市民にはお馴染みの赤い七夕提灯と山口七夕会の旗が掲げられた山口市ブースのテント前でも、準備中から行き交う多くの来場者の姿が見られました。15 時開始になるや否やのタイミングでさっそく甘酒を購入してくださる人があり、出だしは好調。続くお客様の中には、「あら、今年はみかんゼリーはないの?」という方もいらっしや、山口特産品が知られていることに喜びを覚えた瞬間でした。



売り物に加えて、今年はテントの下でゲームも行いました。4 名対抗による『干しえびのつかみ取り』は、伝統工芸品の大内塗の箸を使用し、干しえびを器から器へと移すゲームです。30 秒間で一番多くの干しえびを移した人には、賞品として豪華山口特産品の詰め合わせ(山口産みかんゼリー、外郎、阿東米原料のかきもち)が用意され、それを求めて 2 度目、3 度目の挑戦をするお子さまもいるほどでした。また、子ども達に交って参加した大人の中には、思わず熱くなり本気度 120%で箸を動かしていると思われる方もいらっしや、束の間童心に返って楽しんでいただけたようです。

予想以上に売り物もゲームも好評で、甘酒は 16 時半には完売。25 組 100 名分の参加賞(「干しえび」(売り物の半分サイズ)と、「とくち味噌」を使用した乾燥味噌汁)を用意したゲームも 17 時過ぎには終了。一時は売れ残るかと思われた『干しえび』でしたが、こちら最後にはお客様から「えっ、これ



でもう売り切れなの!？」という落胆の言葉をいただく勢いで 18 時過ぎには完売してしまいました。山口県の地酒を販売された、おとなりのブースの山口銀行の皆さまにもご協力をいただきました。ありがとうございました。



東京に居ながらもこのような形で故郷山口に関われること、そして多くの方に山口を知っていただく取り組みに関われることに感謝しつつ、皆さまと楽しい時間を過ごすことができた一日でした。山口市から来られた職員の方々、お手伝いとして参加された山口七夕会の皆さま、本当にお疲れさまでした。来年も豊洲で再会いたしましょう。





山口市

先着100名!

秋穂産干しえびつかみどり レース!

車えび養殖事業発祥地山口市秋穂の特産品、秋穂産干しえびを、室町時代から伝わる伝統工芸品、大内塗りの箸を使って、制限時間内にいくつ移せるかを競うゲームです!
参加賞・優勝景品をご用意しています!

1. ルール
ルールは簡単!
30秒以内に大内塗りの箸を使って、お皿からお皿へ干しえびを移すだけ!
4人で競って、最も多く移せた人が優勝です!
2. 景品



優勝景品

山口市特産品詰め合わせ

参加賞

秋穂産干しえび
3. 注意事項
★限定25レース(先着100名様)です。
参加希望の方はお早めにお越し下さい!
★お一人様一回のみご参加下さい!



「山口県応援隊東京本部交流会参加」

幹事 本多圭子(会員No.655)

平成 29 年 8 月 9 日(水)、霞が関の東海大学校友会館にて、山口県応援隊東京本部交流会が開催された。山口七夕会からは、八木会長、山縣幹事長をはじめ、武内副会長、山仲幹事、梶山東京本部長、本多が出席した。

第一部は村岡嗣政山口県知事の登壇でスタートした。

村岡知事からは県政の紹介として、「山口県の人口の現状と課題」それに対する「山口県まち・ひと・しごと創生総合戦略」、また、山口県の取り組みの紹介として明治150年プロジェクトの推進、特に来年開催される「山口ゆめ花博」の紹介、観光需要の拡大に向け、「幕

末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン」の開催にともなう乗り物・食べ物・温泉など様々な観光 PR の内容が紹介された。クルーズ船、韓国との国際定期便就航には期待が大である。

次に山口への移住定住の促進について、移住の働きかけ、相談対応、情報提供、受け入れ支援の説明があった。今年7月に行われた促進活動の一環として、東京国際フォーラムでの「やまぐち暮らしフェア」においては来場者約 7 千人と大きな成果を収めたとのこと。若者の県内定着促進活動にも県内企業の魅力情報を発信し、山口県に関心を持ってもらう為の活動の紹介など、村岡知事からわかりやすい言葉で丁寧な説明があり、山口県の取り組みがよく理解できる内容であった。

続いて質疑応答に入り、先ずは山口七夕会・梶山東京本部長より「観光誘致・県内定着促進にあたり、交通の便の悪さ」につき県としての取り組みについての質問と充実して欲しいという要望があった。

また、下関西高等学校旭陵同窓会東京支部・村田幹事代表より「人口減の具体的な内容」につ

いて質問があった。村岡知事からは、それぞれに対して具体的な回答が丁寧に示された。

次に山口県東京営業本部・河村本部長より、「山口県応援隊東京本部・平成 29 年度活動方針(案)」が示された。2018 年に明治 150 年を迎える今、来年開催される「山口ゆめ花博」の PR。今年9月から始まる「幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン」、「ぶちうま!やまぐちサポート」、「やまぐち IJU(移住)サポーター」などを首都圏からふるさと山口県へ向けての情報発信や売り込みに積極的に協力するという方針が打ち出され、満場一致で採決された。

第二部は場所を 35 階に移し、防長倶楽部・村野事務局長の司会により交流会が始まった。

冒頭、防長倶楽部・八木理事長のご挨拶に続き、まずは観光 PR として、「幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン」について、山口県東京営業本部・佐小主査より詳しく熱意を込めて発信があ

った。続いて、若者を代表してながと FROGS(株)・中井社長より山口県を四つのブロックに分けたディープな観光スポットの紹介があった。一同爆笑で大いに盛り上がったところで、山口ふるさと大使を務める歌手のムッシュ吉崎さんのご発声により乾杯をし、いよいよ開宴となった。参加した山口県在京のたくさんのメンバーは、地元のおいしい料理やずらりと並んだ地酒、「一番搾り山口に乾杯」のビールでのどを潤し、故郷山口の話題や参加者の方々との交流をしながら、「ガンバロウ」コールの後、共に山口の活性化やイベントを支援することを誓い合った。

山口七夕会もそうした活動を支援し、山口県の挑戦に協力することを改めて強く認識した次第である。



平成29年山口七夕会山口本部交流会 第4回音楽祭「輪-Rin-」

山口本部事務局長 濱野 文彦

平成29年5月27日(土)
18時30分より、ポルシェ
センター山口にて、山口
七夕会山口本部交流会
第4回音楽祭「輪-Rin-」が
開催されました。

濱野事務局長&申神副
本部長の美男美女コンビ
による司会進行のもと、
はじめに瀬川本部長による
開会挨拶がありました。



第1部は、小野隆洋会員(トロンボーン)、笠原朋
子様(メゾソプラノ)、門屋寛子様(ピアノ)による演奏。
ビゼー作曲オペラ「カルメン」、ミュージカル「サウン
ドオブミュージック」、アヴェマリアほか、格調高いウ
ラシックの名曲を中心に、心震える素晴らしい演奏
でした。



第2部は、樫田史郎会員(ピアノ)と山下りえこ様
(二胡)による演奏。「荒城の月」「ハナミズキ」「千と千
尋の神隠し」「いのちの名前」など、時に優しく、時
に激しく、流れる音楽に皆が聴き入っていました。



第3部は、BHW(坂本哲也会員、米本潔様、田中
茂秋様)によるバンド演奏。「見上げてごらん夜空の
星を」「Ob-La-Di, Ob-La-Da」など、和やかな雰囲気
の中、心躍る演奏で会場に笑顔が溢れました。



第4部は、中野光次郎会員(ジェンベ)と一燈会員
(三味線)によるジャムセッション。アフリカ太鼓のリズ
ムに津軽三味線のメロディを乗せた二人の情熱的
な演奏で会場は、大いに盛り上がりました。



最後は、入江副本部長による挨拶で中締めとなり
ました。今回、ケータリングは「ル・マツ」様に御協力
をいただき、真心のこもった沢山のお料理を提供して
いただきました。

一人ひとり小さな灯火でも、七夕提灯の様に皆が
輪になり繋がることで、街全体を明るく照らすことが
できる・・・山口七夕会山口本部では、今後も様々な
事業を通じて笑顔の輪、ふるさとの絆の輪を広げて
いければと考えています。御参加いただきました皆
様、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。



優しさに限界はない・・・「八重子のハミング」応援隊奮闘記

東京本部長 梶山俊哉

始まりは一本の電話でした。「八重子のハミング」の佐々部監督に連絡を取って欲しい。瀬川山口本部長からの要請を受け、2月18日、山縣幹事長とともに佐々部監督にお会いした時から、山口七夕会東京本部「八重子のハミング」応援隊の活動がスタートします。



山口県出身の映画監督、佐々部清さん。「陽はまた昇る」で監督デビュー。日本アカデミー賞の最優秀作品賞を受賞した「半落ち」では、優秀監督賞に輝きます。社会派監督として知られる佐々部監督には、「チルソクの夏」「出口のない海」など、山口県内で撮影された作品もあります。「八重子のハミング」は大半のシーンが山口県内で撮影されたばかりでなく、原作者であり映画のモデルとなった陽信孝さんが山口県在住の実在の人物という、いわば山口尽くしの作品です。

とはいえ、実力、知名度ともに抜群の佐々部監督が作品化を試みたにも関わらず、大手映画会社、制作会社の協力が得られず、数年越しの難産の末に「自主制作作品」として「八重子のハミング」は生まれます。原作者陽さんの地元である萩の方々の優しさと愛情、惜しみの無い支援のもとで完成した作品は、佐々部監督が「命がけで創った」と語る、まさに監督の分身です。

その監督の想いに最初に応えたのは、山口県の皆さんでした。2016年の11月から始まった県内での先行上映に、何と25,000名の観客が訪れたのです。この数字は、山口県で上映される映画の観客数としては、大健闘の数字です。そして決まった全国ロードショー。先行上映では、200枚のチケットを扱った瀬川山口本部長から、東京本部がバトンを引き継ぐことになります。

まずは2月21日、マスコミ向けの試写会で「八重子のハミング」を観た私は、映写室で暫く動けず、震える心を静めるのに時間を要しました。その感動覚めやらぬ中、翌22日には佐々部監督、野村プロデューサーに加え、防長倶楽部の村野事務局長や相山さん、七夕会の山縣幹事長、武内副会長、瀬川山口本部長ご夫妻が山口県縁のお店「松崎」に集結。「八重子のハミング」の全国ロードショーを成功させるべく、意志結集を図りました。飲んで盛り上がる私達を横目に、なぜか神妙な佐々部監督。実は監督、「八重子のハミング」の全国ロードショーの成功を祈願し、大好きなお酒をお正月から断っておられたのです。野村プロデューサーはケーキ断ち。その心意気に感銘した山縣幹事長も日本酒断ちを決めるなど、「八重子のハミング」をヒットさせるべく士気は高まります。

「八重子のハミング」の東京公開に向け、七夕会に課せられた使命は、一人でも多くの方にこの作品を観ていただくこと。「八重子のハミング」は、私達の誰しもが経験する可能性があり、我がこととして捉えるべき認知症、介護、癌との闘病を描いています。しかし、そこに込められた監督や製作者の、この映画に関わられた方々の想いは、人生の困難を乗り越えるために不可欠な人の優しさや、夫婦の純愛の素晴らしさを伝えることにあります。東京では新宿と有楽町で、5月6日からの公開が決まりました。まずは七夕会の東京圏の会員に、この映画に込められた想いを八木会長と梶山東京本部長連名の趣意書としてお送りし、チケット購入への協力を呼びかけました。同時に、東京本部役員を中心に、七夕会のネットワークを駆使し、友人知人も含めて声をかけます。当初は思いうような反応がありませんでした。それでも、山口関連の様々な会合に出かけてはPRし、同級生や同窓生にメールで呼びかけることで、徐々に温かな反応をいただくようになります。そうこうするうちに、佐々部監督や野村プロデューサーの東奔西走のプロモーション活動もあって、あちこちから「八重子のハミング」を応援する

声が上がり、東京本部のチケット販売も加速していきます。その結果、5月6日の東京公開の時点では、何とか700枚を超えるチケットをお届けすることができました。中には山口や大阪在住の方も含まれますし、介護を本業とされる方々も含まれます。

そして5月6日、全国ロードショーがスタートします。私は新宿武蔵野館の、満席の舞台挨拶公演に駆けつけました。早めに会場に到着したことで、会場入り口にいらした監督に直接ご挨拶することもできました。舞台には八重子さんを演じた高橋洋子さん、実は映画初主演の升毅さん、そして佐々部清監督の達成感溢れる笑顔が並びました。監督の眼は、真っ赤です。監督の男気を傍で感じてきた升さんも、今にも泣きださんばかりです。私も漸くここまで来たかという安堵感と、まだまだこれからという緊張感に包まれ、二回目の鑑賞を終えました。いろんな場面で涙が頬をつたいます。升さん演じる主人公のお母様が、八重子さんは癌を患った主人公の命と引き換えに認知症になったと告げるシーン。有名子役の二宮慶多君が演じる八重子のお孫さんが、八重子さんのことを書いた作文を読むシーン。八重子さんの教え子が介護士になって八重子さんを介護したいと語るシーン。特にこの三シーンが、私の

涙腺を崩壊させました。

後に分かったことですが、山口市で健在にしている私の母は、なんと八重子さんと山口女子大の同級生であり、原作者陽さんの講演に同伴されていた八重子さんに会ったこともあるということです。八重子さんが、母と私をこんな形で結び付けるとは・・・。

「八重子のハミング」。この作品は夫婦の純愛、家族の優しさ、教え子、仲間、地域の皆さんの温かさを伝える作品です。人間の尊厳を守ることの尊さを感じることでできる作品です。また、私にとって、この作品との出会いもさることながら、この作品の応援を通じて素晴らしい方々と出会えたことや、山口の縁で結ばれた方々との絆をいっそう深めることができたことは、感謝の念に堪えません。そんな不思議な力を、魅力を、「八重子のハミング」は持っています。

私の心には、今も「八重子のハミング」が流れています。「怒りには限界があるが、優しさには限界が無い」、という主人公の言葉が響いています。ありがとう「八重子のハミング」。ありがとう佐々部監督。ありがとう山口七夕会の皆さん。

「八重子のハミング」という花はまだ七分咲です。その花が、いずれ皆さんの心の中で、これからの世の中で、満開となることを願ってやみません。

「八重子のハミング」山口七夕会東京応援隊
特別団体鑑賞券(¥1,000円)を購入して下さる応援隊員募集!

四十年過ぎ 妻と歩めし 瀬戸の人生
うす潮の道 今ぞなつかし




2017年5月、全国ロードショー!

有楽町スバル座

【「八重子のハミング」山口七夕会東京応援隊】
お問い合わせ/山口七夕会 幹事長 山縣正彦
yamagata1954@utopia.ocn.ne.jp / 090-9954-7746(18時以降)

エリア	劇場	電話番号	公開日	備考
東京	有楽町スバル座	03-3212-2826	5/6(土)~	●
東京	新宿武蔵野館	03-3354-5670	5/6(土)~	
神奈川	横浜ニューアトム	045-261-2995	5/6(土)~	
群馬	イオンシネマ太田	0276-47-8277	5/20(土)~	

「八重子のハミング」はこれからも「日本のどこか」でご覧いただけます。

見逃された方、再度ご覧になりたい方は、八重子のハミングの上映情報にご注目ください。

八重子のハミング公式サイト/劇場案内
<http://yaeko-humming.jp/theater.html>

神奈川:アミューあつぎ映画.com シネマ

9/16(土)~

神奈川:港南台シネサロン 9/30(土)~

千葉:キネマ旬報シアター 9/23(土)~

など全国各地で上映中!

『故郷山口・仁保荘は、源頼朝からの軍功賞』

山根 和也(会員No.39/横浜市青葉区在住)

念願だった横浜市立歴史博物館を訪ねた。『仁保の郷土史』という村の歴史に中学のころに触れた時からの夢であった。横浜在住38年目にしての実現。駅から5分の道はワクワクだった。

源頼朝が鎌倉に幕府を開いて5年目、建久8年(1197年)平子重経を地頭職に任じ、京都の法勝寺の仁保荘園が与えられた(三浦文書)。

源氏の大將が平子(たいらご)という平氏の流れをくむ家来を抜擢したほど三浦一族のパワーとは何? 横浜の歴博にこもった。

周防国の壇ノ浦の地で平家を滅亡させた源氏の力は三浦一族の抜群の海軍力によるものだった。(『三浦一族と相模武士』神奈川新聞社刊)石橋山合戦で軍功を挙げた賞として源頼朝から仁保荘が与えられた。

歴博の2階常設展示場の豪華さと緻密さにワクワクしながら歩くと中世コーナー入口が、山口市仁保の＜源久寺＞平子重経の座像だった。平子氏は相模三浦半島一体を本拠地(武蔵国久良岐郡平子郷＝現在の本牧町～磯子)辺りが居住地。その後仁保荘園に居住。建久十年(1199)頼朝が没すると位牌の安置するために源久寺を建立。その後、平子氏の菩提所とした。その木造平子重経座像と突然、対面した。



●大賀ハスが有名な仁保の源久寺は三浦氏の菩提寺となった。



●横浜歴史博物館の展示＜平子重経座像＞



●カメラマン=藤井譲二氏(山口市在住)

『レノファ山口初戦観戦記』

大田 宗(会員No.424/東京本部)

山口七夕会の皆さん、レノファ山口の応援をしに行きませんか！レノファ山口のサポーターは、熱男です。

レノファ山口の本社が山口市の実家から 300 メートルぐらいの距離にある。30 年近く前、駒澤競技場で応援に行った秋田商業とのベスト 8 で FW として大活躍した河村さんが現・レノファ山口の社長。さらに一昨年に J2 昇格と、これだけ応援の接点があれば、もうファンにならねば、応援に行かねば(熱男になれ)！との思いから、2017 年初戦 FC 岐阜の本拠地、岐阜メモリアルセンター、長良川競技場へアウェーの立場を認識しつつ、応援に乗り込みました(当然、山口七夕会の旗は持参です)。

岐阜駅と言いますと、40 年前以上前的大河ドラマ(国盗り物語 美濃のまむしこと斎藤道三)で有名になった稲葉城(現岐阜城)を思い出す！と、言われる方もいると思いますが、その稲葉城を右手にバスで進み、20 分ぐらいで敵地・長良川競技場に到着しました。

当然のことですが、アウェーです。

ホーム FC 岐阜のサポーターは長蛇の列、大応援団。それに引き換え、レノファ山口のサポーターは、200 名ぐらいと、かなり心細い。しかし、その不安も吹っ飛びます。観戦準備(山口七夕会の旗の準備など)をしていると、山口市道場門前からきた団体サポーターに『山口』という合言葉に打ち解けあい一体化です。

また、試合開始前に FC 岐阜応援団長より、「遠いところから岐阜までお越し頂きありがとうございます。試合終了後は、温泉に浸かって岐阜の美味しいものでも食べて帰って下さい」と、エールを送られ、気持ちを切り替え清々しい気持ちになったことを思い出します。

さて、試合開始です。先制はレノファ山口です。FW 岸田選手のゴールからサポーターは大いに盛り上がります。2 点目も岸田選手のゴールで前半終了と思われましたが、FC 岐阜のコンビネーションに押され、得点され、2-1 で前半終了。

これは来期、J1 昇格も夢じゃない。と、レノファ山口サポーター内で囁かれ始める中、ハーフタイムでは FC 岐阜の計らいで織田信長などに扮する関係者が大砲を打つなどのサービスで会場のテンションは MAX に。

そして後半のスタートです。

前半とは違い、終始押され気味のレノファ山口。最後にとうとう力尽き、2-2 で初戦を飾れませんでした。

悔しいけど、勝ち点 1。

次の試合は頑張って勝ち点 3 をもぎ取って下さいとの思いを込め、選手の前でサポーター全員でエールを送り、観戦を終了しました。

2016 年の山口七夕会、秋の交流会でレノファ山口の経営室長・中島さんの講話もあり、益々、レノファ山口サポーター魂に火がついた矢先でした(レノファ山口のイオンカードも頻繁に使っています)。

2017 年の試合は、時間の許す限り(出張のついででも)、スタジアムに足を運ぼうと考えています。山口七夕会の旗の近くで応援しています。気楽に声をかけてください。

関東地区での今後の試合は、以下の日程です。

○11 月 5 日(日)東京ヴェルディ/味スタ

○11 月 12 日(日)FC 町田ゼルビア/町田



【前列・右端/筆者】

～楽農部会の収穫祭と村重酒造の新酒を楽しむ会 AT TOKUSA～
冬の徳佐を満喫する会

山口本部楽農部会長 関 和貴

平成 29 年 1 月 29 日、阿東観光協会のイベントホールにて開催いたしました。当日は天候も暖かく(と言っても最低気温-3℃/2 週間前に-10 度を記録しております。)地元の農家の方々や法人会員の企業組合アグリアート・ジャパン、お手伝いの婦人会の皆さんの総勢 43 名の方々と地域交流を兼ねて、シン料理と徳佐産の素材を使った田舎料理を楽しみました。

昨年の秋に収穫した楽農部会栽培の山田錦は出来栄が良く、醸造用加工米で特等米の認定を受けました。これを法人会員の村重酒造(株)で『日下無双』の純米大吟醸に仕上げていただき、新酒のお披露目といたしました。

楽曲演奏も大田哲夫氏のオジサンズ、山下りえ氏の二胡演奏、田中敏光氏(QZUO 氏)のギター弾き語りなどがあり、会に花を添えました。シン料理も上等肉のシャブシャブから定番のシン鍋、猪肉の燻製、屋外の温室の中では猪肉の焼肉もあり、猪料理のフルコースでした。

地元の方々と、山口市街地の方々との話も弾み、今年の田植えや稲刈りでの再会を約束して楽しい交流会となりました。なお、当日の猪肉の消費量は 13 kg、白菜・ネギ等の野菜は一輪車一台(約 20 kg)豆腐コンニャクは各 15 袋。純米大吟醸 4 合瓶 12 本、純米酒 1 升瓶 5 本を消費し、料理の世話をいただいた婦人会の方々を呆れさせておりました。3 名の酩酊者(1 名は昇天寸前のような)はありましたが、救急車のお世話になる方はお見受けしておりません。このエネルギーが山口七夕会の底力です。

次回の交流会も冬の徳佐で開催いたします。是非、ご家族・友人を御誘い合わせでお越しください。
以上、ご報告まで。



【平成 28 年度楽農部会の活動】

- ① 平成28年5月3日、8日 田植えとバーベキュー
参加者: 83 名(一般参加者含む)
- ② 平成28年11月 稲刈り 参加者: 25 名
- ③ 平成29年1月29日 冬の徳佐を満喫する会
参加者: 37 名(徳佐地区参加者含む)